

未来へ森をつなごう～J-クレジット事業で循環型林業に取り組む～

須山 政樹 (すやま まさき/須山木材株式会社 代表取締役社長)

1、深刻化する地球温暖化問題

昨年は日本各地で異常気象が頻発し、大きなニュースとなりました。埼玉県熊谷市で観測史上最高を更新する41.1度を観測。東京都青梅市でも都内初の40度越えとなる40.8℃を記録しました。西日本でも比較的温暖な気候の岡山、広島などの瀬戸内側で、7月の月間降水量の2倍以上の雨が一気に降り、大きな土砂災害が発生しました。台風も大型化し、最大瞬間風速58.1mを観測した台風21号は大阪の都市部に大きな被害をもたらしました。

今年に入ってからも、世界各地で異常気象は続き、欧州各国で最高気温記録が塗り替えられ、フランスの首都パリで7月に観測史上最高となる気温42.6度が記録されました。

異常気象が目に見えるようになったら、もう遅いと言われてきましたが、現実には大雨、大型台風、干ばつ、熱波といった極端な異常気象が地球の各地を襲い始めています。

地球温暖化を促進している主な原因は、世界の人口増加と経済発展によるエネルギー消費の大量化です。それに伴う大気中のCO₂の増加が地球を覆い、毛布でくるまれたような状態になり気温が上昇します。解決策としてはCO₂を吸収していくことが大切になりますが、ここで森林の果たす役割が大変重要になります。森林は長い時間をかけて大気中のCO₂を吸収し、降水と太陽光の力で光合成を行い、酸素を生み出します。豊かな森林が広がる場所においておいしい空気があるのです。しかし、日本の森林の状況は荒廃が進み、だれも手入れをしなくなった山林が広がっています。

今日の森林荒廃の原因となったのは、1960

年以降から70年前半まで続いた乱伐です。経済発展に伴う住宅需要の増加による活況により、森林の成長量の二倍、三倍も上まわる量を伐採し、その後にはスギやヒノキ、マツなどの針葉樹を密植し、伐採までの間隔を短くして成長量を計算し、大造林政策が実施されました。70年代後半に入り、ようやく現実成長量の基準に戻ったと思えた矢先、外国材の輸入で木材価格が低下し、国産材は隅に追いやられると共に、森林の荒廃が進んでしまいました。

今、日本には伐採に適齢期を迎えたスギやヒノキが全国に広がっています。地球温暖化を防止する役割を持つ森林を甦えらせるには、適齢期を迎えた木を伐採し、その後に新たな苗を植え、循環させるサイクルを作っていくことが大切なのです。

2、J-クレジット制度への取り組み

J-クレジットは、森林経営などの取り組みによるCO₂などの温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。J-クレジット事業に取り組むことで森林の荒廃を食い止め、循環型林業の加速と環境に対する配慮を訴え、深刻化する地球温暖化を防止する取り組みです。仕組みとしては、認定された森林面積の中で1年間に森林がCO₂を吸収する量を計測し、J-クレジットを発行して創出者となり、企業活動等で排出された温室効果ガスを自社の代わりに削減してもらう仕組みのことです。

J-クレジット購入者は、企業活動で排出されるCO₂を相殺し、企業価値の向上や環境問題に積極的に取り組む企業としてのアピールができます。J-クレジット創出者は販売し

2018年度経営者「環境力」大賞を受賞して

た代金で森林経営計画に則した森林環境の保全（新植、下刈り、枝打、間伐等）を行い、森林整備を充実させます。

須山木材では「出雲の森プロジェクト」を立ち上げ、島根県内に広がる約900ヘクタールの社有林を森林組合さんの協力を経て、森林経営計画を策定し、毎年林道づくり、植樹、下草刈り、間伐を行い、搬出した木材は自社製材工場で建築材として利用しています。2018年に出雲市多伎町にある125ヘクタールの社有林のJ-クレジット認証の取得を行い、J-クレジット創出者として現在、建設会社、アミューズメント会社、洋菓子店様に約300tのJ-クレジットの販売を行い、森林保全に取り組んでいます。

3. 循環型林業への取り組み

日本は海に覆われた島国で、国土のおよそ7割が森林で豊かな生態系を形成しています。豊かな森づくりを行うことにより、地球温暖化の元となるCO₂を森が吸収し、太陽

の恵みと降水による水の力で光合成を行い、きれいでおいしい酸素をつくりだします。

須山木材株式会社は、住宅用木材の製材、木材乾燥、プレカット加工、山林経営を事業として活動しています。社有林で育てた木を伐採し、製材工場で柱や桁等の住宅用構造材を生産し、品質を高めるために乾燥工程を行っています。さらに従来、大工さんが継手・仕口加工を施していたものを、コンピューター制御で加工するプレカット技術を用いて組み立てまでの加工を行っています。

森林環境を維持していくために、植えて育てた木を伐採し、また植えて育て伐採する。この基本的な考えである”切ったら植える”サイクルを途切れさせません。

深刻化する気候変動に対し、森林によるCO₂の吸収・固定は重要でJ-クレジット事業を通じて、経済活動が得意である都市部と環境に恵まれた地方を結んでいく「グリーンビジネス」を展開してまいります。



循環型林業への取組

